

夢が広がりました
おしえて青年海外協力隊



▲児童の質問に答える山崎さん

6月23日、郡築小学校で「おしえて青年海外協力隊」が実施されました。これは県内在住の青年海外協力隊経験者を講師として招いて、開発途上国の現状や日本の国際協力力の体験を子どもたちに伝え、開発途上国への興味を喚起し、国際理解を深めることを目的としています。講師にザンビア共和国へ理数科教師として派遣された山崎英亜さんが招かれ、児童71人にザンビアでの経験を話しました。講話の中で山崎さんは「たくさんのかけがえのない出会いがありました。仲間は一生涯の宝物、大切にしてください」と話しました。

その後の質問では、多くの児童が手を挙げてザンビアでの生活について質問したり、自分の夢を語ったりしました。

日奈久小学校が環境大臣表彰を受けました
地域環境美化功績者表彰



▲環境美化活動の中心的存在となっている5・6年生

6月14日、日奈久小学校が環境大臣から地域環境美化功績者表彰を受けました。これは、環境省が毎年6月の環境月間にあわせて、環境保全や地域環境保全と地域環境美化に顕著な功績があった人や団体を表彰するものです。

同校では、平成18年度から学校版環境ISO活動を中心に、省資源省エネルギー活動やごみの減量化、3R活動などに積極的に取り組んでいます。また、毎月第2・第4月曜日に地域の資源回収に参加し、地域住民が先生役となり学校の資源ごみを児童たちが分別しています。環境美化について児童たちは「先輩たちがやってきたから自分たちも自然とやっている。あまり意識してないし、当たり前だと思っている」と話しました。

100歳おめでとうございます



永田 ミエさん
(北の丸町)

大正6年7月11日生



飯田 フミ子さん
(日置町)

大正6年6月20日生

本町で3人きょうだいの3番目として生まれ育ったミエさん。人と接することが好きで、若い頃から友達が多いそうです。洋裁や編み物が得意で女学校時代は下級生の制服を縫うこともありました。

長寿の秘訣は「誰とでも笑顔で会話すること」。

毘舎丸町で6人きょうだいの三女として生まれ育ったフミ子さん。4人の子宝に恵まれ、家事に育児に多忙な日々を過ごしました。裁縫が得意で、子どもたちの洋服だけでなく、親戚の着物などもよく作っていたそうです。

長寿の秘訣は「腹八分の食事を心がけていたこと」。

伝統行事を継承
八代妙見祭 出し物体験教室



▲子どもによる獅子舞歓迎演舞

7月9日、植柳小学校体育館で八代妙見祭出し物体験教室が行われました。これは地域の子どもの地域伝統行事に対する関心を高めるとともに、将来の担い手育成を図ることを目的としており、今年で11回目の開催となります。

同体育館では獅子や亀蛇、木馬、流鏝馬などの体験コーナーや体育館の外ではポニーの乗馬体験もありました。

妙見祭を支える団体の指導のもと、いろいろな出し物を体験し、子どもたちは見て、触れて、妙見祭を肌で感じ、楽しみながら学んでいました。流鏝馬を体験した近松一歩さん(植柳小6年)は「自分の思った方向に矢が飛ばなくて難しかったです。また機会があればやってみたい」と話しました。

八代をPR

台湾ドラマ撮影クルーをおもてなし



▲八代の特産品を受け取る莊凱勳さん（左）

6月22日、台湾ドラマの撮影が八代で行われ、肥薩おれんじ鉄道車内や日奈久温泉駅、日奈久温泉街が撮影の舞台となりました。

このドラマは本市出身で晩白柚を台湾から八代に伝えた植物学者・島田弥市さんの台湾における功績にインスピレーションを得て制作されるものです。撮影の合間には、湯の里日奈久振興会などが晩白柚入浴剤や日奈久竹輪などを出演者の莊凱勳さんや柴本幸さんらにプレゼントしました。特産品を受け取った莊凱勳さんは「熊本は街がきれいで、人も親しみやすく、環境が素晴らしい」と笑顔で話しました。

貴重な手植えを体験

八代農業高校と有佐小による田植え



▲苗をたくさん植えました

6月16日、八代農業高校の農場で、同校生徒と有佐小児童との交流体験活動が行われ、約40人が貴重な手植えを体験しました。両校では、2年前から田植えや稲刈り、食育活動といった交流プログラムが実施されており、今回はその活動の一環として行われたものです。

小学生は高校生の指導を受け、泥だらけになりながらも一本一本丁寧に苗を植えていました。参加した白石梨乃さん（有佐小5年）は「途中土が柔らかくなり、稲が倒れて大変でしたが、高校生が教えてくれて稲を植えることができたので良かったです」と笑顔で話しました。

迫力ある大太鼓

和太鼓集団「志多ら」邦楽公演



▲志多らによる力強い演奏

6月14日、植柳小学校で和太鼓集団「志多ら」による公演が行われました。これは文化庁が行う「文化芸術による子どもの育成事業」の一環によるものです。

同校体育館には児童や保護者など約300人が集まり、参加者は大太鼓の力強い演奏に聞き入っていました。公演の後半は児童が大太鼓をたたいたり、事前のワークショップで学んだ演舞を披露したりする場面もあり会場が一体となりました。公演を鑑賞した緒方そらさん（4年生）は「大太鼓などいろいろな楽器の演奏が聞けて楽しかったです」とうれしそうに話しました。

山頭火ゆかりの宿が復旧 おりや改修記念式



▲おりやを案内する池田正一さん（右）

6月24日、おりや改修記念式が開催され、地域住民、寄附協力者ら約60人が参加しました。おりやは種田山頭火が宿泊した建物で、日奈久観光振興の拠点となっていますが、熊本地震で破損。その後、市がインターネットで資金を募り、全国からの寄附で改修を行いました。

式では、地域を代表して、九月は日奈久で山頭火実行委員会の今田徳次郎会長が「多くの人のからの寄附でおりやが復旧し、胸が詰まる思いでいっぱいです。日奈久が元気のある温泉地になるようにみんなで頑張っていきます」と感謝を述べました。

薬物乱用のない“くまもと” 薬物乱用防止キャンペーン



▲買い物客へ薬物乱用防止を呼び掛ける

6月24日、薬物乱用防止キャンペーンがゆめタウン八代店で行われ、八代地区薬物乱用防止指導員協議会、ボイスアウト、スポーツ少年団など約80人が参加しました。

これは、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動熊本県事業の一環として毎年行われているものです。スポーツ少年団の中崎碧さん（郡築小6年）が「薬物の乱用を他人事とせず、薬物に対する正しい知識を身につけ、力を合わせて薬物乱用防止の輪を広げていきたいです。」と宣言。啓発チラシなどを買った買い物客へ配布し、国連支援募金への街頭募金活動を行いました。

スリランカで頑張ってきます JICAボランティア出発前表敬訪問



▲出発の報告に訪れた本田倫子さん（左）

7月から2年間、JICAボランティアでスリランカに派遣が決定した本田倫子さん（迎町）が6月23日、市役所鏡支所を訪れ、中村博生市長に出発の報告をしました。

これは、日本政府のODA（政府開発援助）の一環として、国際協力機構（JICA）が実施する事業です。本田さんは福祉に携わってきた経験を活かし、ソーシャルワーカーとして、主に障がい者の支援を行う予定で、「福祉に携わってきた経験を現地で役立てることができれば、できる限りのことをやっていきたい」と抱負を語りました。



写真で八代をPR

スリーデーマーチフォトコンテスト表彰



▲フォトコンテスト入賞者の皆さん

6月30日、九州国際スリーデーマーチ2017フォトコンテストの表彰式が市役所鏡支所で行われ、19人75点の応募の中から、最優秀賞1点、優秀賞2点、審査員特別賞1点、入選6点の計10点選ばれ、8人が受賞しました。村松静代審査員長は「撮影アングルが素晴らしい作品が多かった。色の濃淡をはっきりさせることで良くなる写真もあった。これからも撮影技術を磨いてください」と講評しました。2年連続最優秀賞を受賞した森口昭十四さんは、「グランプリがとれてうれしい。八代がどこで良いところを表現できた」と話しました。

ふるさと納税の返礼品を寄附 絵画寄附贈呈式



▲中村市長に絵画を手渡し中里嘉孝さん(右)

6月29日、日奈久温泉センター(ばんべい湯で絵画寄附贈呈式が行われ、中里嘉孝さん(広島県呉市在住)が中村博生市長に八代亜紀さんが制作した絵画を手渡しました。この絵画は、中里さんがふるさと納税の申し込みをした際に、妻のふるさとである日奈久の景観や日奈久に関わりのあるものを題材にした絵画を日奈久温泉センターに飾りたいとの思いを受けて、今回特別に制作されたものです。中里さんは「熊本の復興と日奈久温泉の活性化のために何かできないかと考え、絵画を寄附することに決めました」と笑顔で話しました。

イ草の産地に希望の光 新型ハーベスタ導入開始



▲関係者が見守る中、新型ハーベスタが稼働

6月25日、平岡浩二さん(鏡町)のほ場で、新型ハーベスタが導入されました。ハーベスタは、イ草を刈り取るための機械で、イ草を継続して生産するためには必要不可欠なものです。平成20年に製造中止となり、官民一体となって取り組んだ結果、本年度から3年間で100台が導入され、日本最大のイ草産地である八代地域の生産意欲の維持・向上に大きく貢献することが期待されています。平岡さんは「部品取り用に中古のハーベスタを確保しなければならなかったが、これからは安心してイ草を生産できる」と話しました。

親子で楽しいひととき

くまもと「親の学び」プログラム



▲体全体を使ったじゃんけんをする子どもたち

7月5日、千丁みどり保育園で「保育参加、子育て講座」が行われました。これは、くまもと「親の学び」プログラムの一環として実施されており、子育てのポイントを身近な話題から楽しく学ぶものです。同年代の子を持つ親同士、楽しく和やかな時間を過ごしました。前半の保育参加では親子ふれあい遊びや親子体操が行われ、子どもと親と一緒に体を動かしました。子ども一人でもできる体操や遊びから親子でできるものまで、たくさんのお話を保護者が熱心に講師の話聞いていました。

八代から世界のアスリートへ 八代市強化指定選手 指定証交付式



▲八代市強化指定選手と関係者

6月30日、「トップアスリート育成事業」で強化指定選手に選出の8競技20人が八代ホワイトパレスで強化指定選手指定証を受けました。同事業はオリンピックなどの国際大会で活躍する競技者の輩出を目指し、競技者への支援活動を推進することを目的に、本市が市体育協会と連携して実施している事業です。選手を代表して八代農業高校2年生の水口雅基選手(ウェイトリフティング)が「選ばれて光栄で、身が引き締まる思いです。東京オリンピックや国際大会に向けて頑張っていきたいです」と決意を述べました。

茅の輪をくぐって除災招福 遙拝神社 茅の輪くぐり



▲茅の輪をくぐる参拝者

6月30日、豊原上町の豊原神社(遙拝神社)で茅の輪くぐりの行事が行われました。茅の輪くぐりとは、盛夏を前に疫病退散、除災招福を祈る祭りです。半年間の間に知らず知らず犯した罪を茅の輪をくぐることでよみがえります。遥拝神社では、人がくぐる茅の輪だけでなく、ペットや自動車もくぐる茅の輪もあり、晴天の中、多くの参拝者が茅の輪をくぐりました。ペットと一緒に茅の輪をくぐった木下美子さんは「1年に1回の茅の輪くぐりを毎年楽しみにしています」と話しました。